

～ 講演会の歩み ～

講演会は会員の期待の最も多い日本倶楽部の活動です。昭和20年10月、終戦後間もないときに「原子爆弾に就いて」という講演会が仁科芳雄先生を講師に開催されましたが、以後毎月2回講演会が開催されることとなりました。現在は原則毎月3回の開催となっています。

記録のある昭和25年からの講演会の歩みを振り返ってみました。政治、外交、経済のほか、科学、文化、芸能、スポーツ等幅広い分野の講師をお招きして、その時々に関心の深いテーマで開催されています。なお、昭和29年度から同55年度にかけて、談話会が別途実施されており、こちらへお招きした講師も含めて記載しました。

安倍晋三総理大臣には、平成24年2月、野党時代に「美しい国をめざして」というテーマで講演していただきました。講師をお願いし、その後総理大臣を務められた方々は、岸信介(昭和31年1月「保守合同後に於ける政局」)、三木武夫(昭和31年3月「東南アジアを視察して」、昭和32年4月「当面の政局」、昭和34年11月「世界を廻って」)、福田赳夫(昭和33年7月「新内閣の抱負」、昭和39年4月「時局雑感」)、大平正芳(昭和36年1月「経済成長政策について」)、田中角榮(昭和40年9月「党の近代化と最近の国際情勢」)、中曽根康弘(昭和29年9月「モスクワ、東京、北京」、昭和54年5月「最近の国内情勢と国際情勢」)の各氏をはじめ、宮澤喜一、竹下登、橋本龍太郎、海部俊樹、森喜朗、鳩山由紀夫の各氏と多数の方々です。総理大臣を退任された後講演をしていただいた方々は、芦田均、岸信介、中曽根康弘、羽田孜、野田佳彦の各氏です。その他与野党の有力政治家の方々の名前が見えます。

ノーベル賞受賞者の小柴昌俊(平成18年5月「やれば、できる。」、山中伸弥(平成26年12月「iPS細胞がつくるあたらしい医学」)、大隅良典(平成30年6月「半世紀の研究を振り返って、日本の基礎科学の現状を考える」)の各氏、東大総長の茅誠司(昭和29年6月「最近科学の展望」、佐々木毅(平成7年7月「日本の政局とこれからの課題」、有馬朗人(平成22年4月「対称性—西欧と日本の考え方の違い」)、吉川弘之(平成27年2月「科学と社会」)、濱田純一(平成28年5月「メディアと政治」)の各氏、その他多くの学者、研究者の方々に講演していただきました。

武者小路實篤(昭和30年4月「自然と人生」)、伊藤

整(昭和43年4月「明治の文士」)、中村汀女(昭和53年4月「朝の窓」)、阿川弘之(平成9年4月「海軍雑話」)、阿川佐和子(平成9年11月「私が会った人々」)、曾野綾子(平成13年1月「21世紀を迎えて」、平成21年1月「表現の力」、平成25年5月「世界の中の日本」)、三浦朱門(平成18年1月「日本と近代」、平成23年1月「日本文明の特色」)、塩野七生(平成19年5月「ローマ人の物語」を書き終えて)の各氏等文学の世界、中村鴈治郎(昭和49年11月「上方歌舞伎四方山話」)、坂東三津五郎(昭和48年4月「父、三津五郎を語る」)、尾上梅幸(昭和52年7月「芝居四方山話」)、松本幸四郎(昭和54年2月「歌舞伎あれこれ」)、中村歌右衛門(昭和55年3月「歌舞伎四方山話」)、市川海老蔵(昭和60年3月「団十郎襲名を前にして」)の各氏等歌舞伎俳優、沢村貞子(昭和56年6月「役者気質」)、杉葉子(平成19年6月「映画で伝える日本の心」)の両氏は女優、武原はん氏(昭和61年1月「舞踏七十年」)は舞踏家等芸能、文化の世界で活躍された方々も見られます。團伊玖磨(昭和51年2月「私達と周囲」)、黛敏郎(昭和52年2月「日本の心」)の両氏は音楽家、絹谷幸二氏(平成21年2月「アートな匙加減」)は画家です。木村義雄(昭和37年6月「将棋の歴史」)、大山康晴(昭和61年9月「勝負と人生」)、呉清源(昭和59年5月「私の歩いてきた道」)の各氏は将棋、囲碁の世界で活躍された方々、神風正一氏(昭和55年9月「相撲雑話」)は大相撲、川淵三郎氏(平成25年11月「夢があるから強くなる」)はサッカーの出身です。一龍斎貞鳳氏(昭和44年12月「巷談」)は講談師、大村崑氏(平成20年2月「いま幸せですか」)は喜劇俳優等まことに広い範囲から講師をお招きしていることが分かります。

三笠宮崇仁殿下(昭和33年12月「南米より帰って」、昭和42年6月「古代オリエントの新年祭」)、徳川本家18代徳川恒孝氏(平成28年12月「徳川400年を考える」)のお名前も見えます。

グレアム・フライ元駐日英国大使(平成19年3月「気候変動—なぜ、今、取り組まなくてはいけないのか—)、異文化コミュニケーターのマリ・クリスティーヌ氏(平成29年3月「世界の中の日本」)等国际的に活躍されている方の講演もあります。

様々な、まことに広い分野から一流の方々に講師をお願いし、その時々に関心の深いテーマについて講演をしていただいていることが分かります。